

いちのみの芸術文化

■ 特集「真清田神社の歴史と宝物」

■ 「エッセイ」 木曾川と絵画

■ 洋画部門 一宮美術作家協会／洋画部

■ 「活動」 楽しい川柳

■ 川柳部門 一宮川柳社 川越洪太郎

三輪清弘

■ 第76回一宮市美術展入賞者

■ これからの催し

■ 文化講演会（報告）

2018.12

第47号

一宮市芸術文化協会

真清田神社古絵図

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

真清田神社の歴史と宝物

真清田神社の歴史

四月の桃花祭や七月の七夕祭に知られる

真清田神社は、一宮市の中心部に鎮座し、「尾張国の一宮」と呼ばれる神社です。現在、真清田神社の主神は農耕を司る天照大神の孫、天火明命ですが、江戸時代以前は国常立尊や大己貴命とも言われていました。

真清田神社のはじまりについては明らかではありませんが、社伝によれば神武天皇三十三年（紀元前六二八年）、天火明命が大国葛城の高尾張邑からこの地へ鎮座したとされています。『続日本後紀』の承和十四年（八四七年）十一月条に、尾張国丹羽郡二之宮村（現愛知県犬山市）に鎮座する大縣神社とともに無位から従五位下の神階を賜った記録があります。この記載から少なくとも九世紀中頃には真清田神社が鎮座していたことがわかります。このような長い歴史があるにもかかわらず、創建から十七

世紀初頭にかけての歴史はいまだ霧の中に包まれて、本格的な解明の時が来るのを待っているかのようです。

そんな真清田神社の中世の様子を窺い知る資料に「真清田神社参詣曼荼羅」（真清田神社古絵図・市指定文化財）があります（表紙・博物館常設展示室にてレプリカ展示）。当時の真清田神社は全国的にみられるように神と仏が同座する神仏習合の神社でした。応永年間に歌僧正徹が著したとされている「真清田神社縁起」一巻には仏事が記載されていることから、中世において神宮寺がかなりの勢力をもっていたことがわかります。

ところが、江戸時代の寛永八年（一六三八年）に尾張藩主徳川義直によって社殿等が再建されるも、神宮寺に関連する堂舎は再建されませんでした。それにともなって中世に営まれた仏事は執り行われなくなりました。

寛永十六年（一六三九年）になると、藩

主義直は黒印状をもって中島郡一宮村のうち高三百三十三石六斗を社領として寄進しています。寛文五年（一六六五年）になると、この社領は將軍家綱の朱印状をもって朱印地として寄進されました。この時、熱田社、津島社も同時に朱印地となり、熱田・一宮・津島という尾張藩における社家の座順も決まったようです。

享保十二年（一七二七年）になると、門前町で市が開設され、商品物流の拠点の一つとなりました。その市は三と八の付く日に開かれていましたので「三八市」と呼ばれました。江戸時代後期に編纂された『尾張名所図会』に描かれている「一宮月並市」からもその盛況さがわかります。

真清田神社は人々の信仰の場でもあり、生活を支える場でもあったことがわかります。



▲江戸時代後期の三八市（「一宮月並市」
『尾張名所図会 後編第一巻』）



▲江戸時代後期に描かれた真清田神社(『尾張名所図会 後編第一巻』)

真清田神社の宝物

二六〇〇余年の歴史をもつ真清田神社には大切に伝えられてきた多くの宝物が遺されています。しかしながら、享徳四年(一四五五年)の火災や天正十三年(一五八五年)の天正大地震や戦乱、荒廃などの危機によって焼失や流出した宝物も少なくはありません。江戸時代には東神宮寺の般若院に安置されていた円空が彫った不動明王立像と二童子が何らかの理由によって江戸へ流出し、現在は東京都新宿区に中井出世不動尊(区指定文化財)として祀られています。また明治時代には「神仏分離令」によって、西神宮寺の本尊であった阿弥陀如来坐像は売却され、現在は江南市布袋町新町の大仏堂に安置され、県指定文化財となっています。

特に昭和二十年(一九四五年)七月の一宮空襲による被害は甚大で、神殿以下諸社殿など多くの建物が焼失しましたが、宝蔵や神輿庫、手水舎のみ難を逃れました。これらの危機を乗り越えて遺されている宝物は平成元年(一九八九年)に開館した宝物館に大切に保管されています。

現在、真清田神社に伝来する宝物のうち、国の重要文化財は「舞楽面」や「御膳台盤」など四件、県の指定文化財は「獅子頭」など三件、市の指定文化財は「銅鈴」など十三件があります。平成三十年八月二十四日

には「金銅釣灯笼」が新たに愛知県の指定文化財となりました。ほかに国の登録有形文化財建造物三件があります。



▲金銅釣灯笼(県指定文化財)

遷座二六五〇年

これまでに明らかにされてきたことは『真清田神社史』(一九九四年)として刊行されています。その神社史には「これらの宝物の詳細は、将来、精細な調査により編纂されるであろう『宝物図録』に譲ることとして」とあります。今後、調査を進め、真清田神社の実像を明らかにできるようにしていきたいと思っています。

(一宮市博物館 学芸員 石黒智教)

【参考文献】

『真清田神社史』(真清田神社史編纂委員会、一九九四年)
小島梯次「尾張から江戸まで旅をした円空仏」(円空学会だより)季刊第一〇七号、一九九八年
『真清田神社史 資料編続』(真清田神社史編纂委員会、二〇〇七年)

木曾川と絵画

洋画部門 一宮美術作家協会/洋画部 三輪 清弘

木曾川の豊富で清らかな水は、尾州の繊維産業の発展に大きく貢献してきました。戦後の高度成長期には、紡績、



「CARNIVAL」 300号
尾西信用金庫事務センター展示

私が生まれたときは、既に周りの農地は区画整理され、木曾川から引かれた宮田用水より農地に水が注がれていました。当時、濃尾の里は二毛作もあり、夏場は稲、冬場は麦を作り、木曾川がもたらした肥沃な大地の恵みにより豊かな地域が育まれていました。子供の頃は、木曾川で泳いだり、魚釣りをしたり、田んぼの用水路では、魚を採ったりして毎日のように遊んでいました。昭和二十年終戦のその日も、木曾川で泳いだあと、自宅への帰りに玉音放送が流れていたことを覚えています。

出入りし、そこで働く人々の躍動があり、この地に産業の隆盛がありました。私も戦後まもなく、中学生の頃から兄が経営する毛織物工場の手伝いをして繊維産業にたずさわり、引退するまで毛織物の企画とデザインを主に担当しました。地元の起工業高校紡織科で



「躍動 I」(左)・「躍動 II」(右)



F100号 一宮市総合体育館展示

撚糸、染色、織り、補修、整理、縫製など各工場で作られた織物が、全国や世界に送られ、かつて繊維産業は日本の基幹産業の一つとして存在していました。工場の機械の音が町中に響き渡り、工場や倉庫には多数のトラックが



「躍動」 F100号
尾西信用金庫事務センター展示

は、美術担当で公募展の審査員でもあった先生に出会い、油絵をはじめとした絵画を高校二年生から本格的に描き始めました。以来、人との出会いや繋がりを大事にして、作品を創り続け現在に至っています。作品の一部は、寄贈させていただき、一宮市総合体育館、一宮市木曾川文化会館 尾西信用金庫ホール、尾西信用金庫事務センター、尾西スポーツセンター、国の登録有形文化財「墨会館」(一宮市)に展示されておりますので、ご高覧いただけましたら幸いです。



「躍動」 F150号
尾西スポーツセンター展示

活動

楽しい川柳

川柳部門

花鳥風詠の俳句は「季語」を使

いますが、川柳にその制約はありません。そのため川柳は、仕事や家事、子育てに介護、旅行や散歩にいたるまで、人の生活を独自の視点で観察します。また、政治や経済などの社会の動きを題材に、社会風刺をすることもできます。そのような性格をもった川柳は、人間風詠の文芸と言われています。最近、サラリーマン川柳などの「公募川柳」も増えてきました。自治体や企業が募集するものには川柳の名がつけられますが、PRや標語のようなものは、個人の投句が中心です。

一方、私たちの吟社が行う「座の文芸」としての川柳は、それらと一線を画しています。



真剣に被講を待つメンバー

一宮川柳社 川越 洪太郎

〇五十年前の一宮川柳社

当吟社は、文芸としての川柳を楽しみつつ、その普及と発展のため、市の支援を受けながら活動を続け、やがて半世紀になります。一宮の川柳事情を窺い知る、貴重な資料を覗いてみましょう。

〈昭和四十七年十二月「川柳いちのみや」への森銘太郎市長（当時）の寄稿より抜粋〉

「川柳」といえば、先々代市長吉田萬次先生の名を忘れるわけにはまいりません。まずみ川柳社を主宰し、「柳長子」の号で、多数の同好者と作品を残されました。

（中略）

一宮における川柳文学活動も、数年前、一時停滞していたようですが、現在では一宮川柳社が活発に活動を続けられ、川柳文学の発展に尽くされていくことは喜ばしいことでもあります。

当時の句を、柳誌から拾ってみ

ましよう。

青空をコマ切れにしてビルが伸び
タマコシ、ダイエー、名鉄丸栄などの
ビル。 景子

パチンコやペースを乱す曲をかけ
鏡司

BGMも、演歌からフォークソングへ。

ガラス張り光満ちたる新庁舎

谷ゆき

昭和四十六年、十階建ての庁舎が建ちました。

〇川柳教室と柳誌の発行



持ち回りでを行う選者の席

設立当初は、産業体育館や、常念寺さん、日本勧業銀行などをお借りしていましたが、昭和五十三年にスポーツ文化センターが出来、

現在まで教室として使用しております。



丁寧な指導

毎月の定例会は、宿題や席題の句を披露しながら、笑い声の絶えない楽しい会となっています。様子を伝える柳誌「川柳いちのみや」は、名古屋市や愛知・岐阜県下の各吟社との柳誌交換を通じて、広くPRして行くとともに、相互のレベルアップをも図っています。また、中央図書館の七階にて、過去五十年分の柳誌が閲覧可能です。川柳に記された一宮を、ぜひ味わって下さい。



月1回発行の柳誌

第76回

一宮市美術展

11月15日(木)～18日(日)まで、一宮スポーツ文化センターで「第76回一宮市美術展」が開催されました。市内を中心に近隣市町村や県外からも多数作品が寄せられ、510作品の出品がありました。審査の結果、入賞となった175作品をはじめ509作品が展示されました。

期間中は、約4、800名の方々が来場され、作者の熱い思いが詰まった作品を熱心に鑑賞されていました。また、金曜日は終了時間が午後7時まで延長され、延長された時間帯には洋画・書・写真部門の種目別解説も行われました。お仕事帰りの方やお子さん連れのご家族などたくさんの方が来場されていました。解説に来場されていた方々はとても熱心に解説に耳を傾けておられました。

市長賞受賞作品は一宮市博物館で行われた「2018一宮市現代作家美術優秀展」(12月1日(土)～16日(日))でも展示されました。

各部門で入賞された方は次のとおりです。なお、同一賞内での掲載順は順不同です。(敬称略)

日本画

審査員

鈴木喜家 大島奈知子

市長賞

橋本薫奈

教育委員会賞

吉田真弓

美術展賞

渡辺重義 本間誠二

本多加代子

奨励賞

高柳 襄 松本君子

森 正隆 湯浅真奈美

入選

28点

洋画

審査員

山田 彊一 天野 一夫

岩田 哲夫 堀尾 一郎

大島 信人 三輪 修

市長賞

山本 忠弘 鈴木 孝治

教育委員会賞

浅野 なつ子

石原 孝一

飯干 智子

木村 忠嗣

美術展賞

磯部 和久

ヒサオカメヤマ

森 耕太

永井 工バ

速水 基司

河村 幸子

平田 博子

藤井 忍

田中 勢智代

竹中 美浪

丹慶 哲宏

小澤 富美子

久田 千恵子

伊藤 浩

宇野 美岐子

古田 好子

森 茂正

森 信雄

中田 世津子

伊神 富貴枝

森 田 孝

森 たみよ

吉田 光良



洋画部門解説
(解説:堀尾一郎さん)

溝口 敬子

蜂須賀 晋司

細江 波瑠

浅田 百合子

前澤 奈帆子

安田 龍生

星野 鎮

日野 絹枝

河村 正子

伊藤 俊治

山田 美保子

岩田 華衣

梅田 恵子

高田 國光

水谷 律子

彫刻・立体

入選

143点



彫刻・立体部門解説
(解説:真下賢一さん)

審査員

堀 龍太郎

櫻井 真理

市長賞

樋口 勝彦

教育委員会賞

森 孝行

美術展賞

一色 咲良

渡辺 朝喜

奨励賞

柘植 雅一

入選

14点

工芸

審査員

加藤陽児 澤田進治

市長賞

榎田いずみ

教育委員会賞

入江順子

美術展賞

宮田由美

丹慶哲宏

奨励賞

大山華

薫田泰雄

野沢あや子

土方輝

入選 41点

田羽多美幸
尾崎悌次郎
伊藤光江

村上浩子
鈴木博司



工芸部門解説
(解説:澤田進治さん)

デザイン

審査員

服部純栄 岡崎美穂

市長賞

田中雄大

教育委員会賞

柘植雅一

美術展賞

脇田光健

岩田莉奈

奨励賞

岩田勇治

瀧嶋佑基

吉田千杜子

入選 32点



書

審査員

松永清石

則武穹

川浦碧濤

安藤蘇道

市長賞

脇田玉波

山田清翠

教育委員会賞

秋好水遼

原香風

美術展賞

石井玉華

林華静

則竹松慶

高松彩月

吉松留美

夏原加奈

内木葉留香

森隆城

田代春苑

岩田展穂

内藤春翠

濱田幽翠

川出暁香

渡辺湖風

小笠原澄遠

外村幹秀

大橋溪煙

後藤柳月

山本瑤華

宮田苔華

安達寿扇

岩根民江

尾関明美

菱川武

野々垣清城

梶木光雪

山崎紅影

後藤沼香

山田行鶴

内出紅華

志知隆道

川本青柊

戸谷嘉恵

鶴田京子

内山由美子

平岩幸子

竹内深風

入選 155点

山田弘子

今井恭子

西澤晴香

佐藤狸紗

春日井澄高

山口如泉

花木寛城

花々木抱

西垣美茜

高取春霞

村瀬紫苑

小島華扇

林翠竹

伊神薪水

保田昌石

大塚雅泉

山内山抱

平野桃瑤

山田紅照

佐々木花抱

花々木抱

山田紅照

志知隆道

川本青柊

戸谷嘉恵

鶴田京子

内山由美子

平岩幸子

竹内深風

山田弘子

今井恭子

西澤晴香

佐藤狸紗

春日井澄高

山口如泉

花木寛城

花々木抱

教育委員会賞

加藤通子

美術展賞

中村妙子

可児芳春

野村政明

小澤直哉

笠野俊彦

岡田忠夫

成瀬憲司

谷口勉

村瀬正明

重松義明

水野雅央

大矢真理子

今井彰二

小島高子

長谷川薦江

入選 96点

橋本秀子

所由紀子

千田勝利

大矢勝末

加藤辰義

桜井悦子

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣

山田久司

鈴木正治

野口博子

笠原抄織

三須美樹

木村晴子

安藤雅彦

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣

大野廣



写真部門解説
(解説:夫馬勲さん)

文化情報



「島影」

大塚 将司

《市および市内公共施設の催し予定》

※一宮市博物館・三岸節子記念美術館
○入館は午後4時30分まで
○月曜休館（休日の場合は開館）、休日の翌日休館（ただし、土曜日・日曜日または休日の場合は開館）

一宮市博物館

☎(46)3215

企画展「くらしの道具〜ことばになったモノたち〜」

日時 ● 1月12日(土)〜3月10日(日)

内容 ● 「ことばになったモノたち」をテーマに、ことわざや慣用句などに登場する道具を紹介しながら、古い道具や昔の暮らしをご紹介します。

観覧料 ● 一般 200円

高大生 100円

小中生 50円

特集展示「墨コレクション 陣羽織」

日時 ● 1月29日(火)〜4月7日(日)

内容 ● 墨コレクションの中から、意匠を凝らした日本と西洋の出会いから生まれた陣羽織をご紹介します。

観覧料 ● 一般 200円

高大生 100円

小中生 50円

企画展「くらしの道具〜くらし体験講座」

①「たこづくり教室」

日時 ● 1月13日(日)

午後1時〜3時

場所 ● 講座室

定員 ● 30名

（応募者多数の場合、抽選）

対象 ● 園児〜小学6年生

（小学3年生までは保護者の付添いが必要）

内容 ● 日本の伝統的なこをつくります。当日は全国のめずらしいこの展示もあります。

講師 ● 澤木 寛氏（日本の風の会 尾張一宮支部 会長）

参加料 ● 無料

（ただし常設展観覧料が必要）

申込み ● 1月4日(金)（必着）までに

はがきに講座名、代表者の氏名（ふりがな）、住所、電話番号、参加者全員の氏名（ふりがな）、年齢、メールアドレスを明記して一宮市博物館（〒491-0922 大和町妙興寺2390）まで、「いちのみや子育て支援サイト・アプリ」からも申し込み可能。詳細等は、メールにてご連絡します。1通につき1家族まで応募可能。

②「みんなでつくろう、ワラカ」

日時 ● 3月2日(土)

① 午前10時〜10時30分

② 午後1時〜1時30分

③ 午後3時〜3時30分

場所 ● 講座室

定員 ● 各回先着25名程度

対象 ● 小中学生

参加料 ● 無料

（ただし常設展観覧料が必要）

申込み ● 不要

③「昔の道具の移り変わりを調べよう」

日時 ● 2月10日(日)

① 午前10時〜10時30分

② 午後2時〜2時30分

場所 ● 講座室ほか

定員 ● 各回先着15名

対象 ● 小学生

内容 ● くらしの中で使われてきた道具の移り変わりなど、実際に道具を観察したり、体験しながら学んでみよう。

参加料 ● 無料

（ただし常設展観覧料が必要）

申込み ● 不要（当日整理券配付）

④「昔の遊びで遊んでみよう」

日時 ● 1月20日(日) 2月3日(日)

2月24日(日)

各日とも午後1時〜4時

場所 ●和室、講座室、中庭など
定員 ●なし

対象 ●全年齢

内容 ●コマ回しやメンコ、お手玉など昔のおもちゃで遊んでみよう。ボランティアさんが遊びを教えてくださいの日もあります。

参加料 ●無料

(ただし常設展観覧料が必要)

申込み ●不要

【16ミリフィルム上映会】

日時 ●1月26日(土)

午前「たぬきの恩がえし／あつたてんがのお」
午後「ミッキーマウスと魔法の帽子／からすのパンヤさん」ほか
2月3日(日)
午前「ぼくときどきぶた／だるまちゃんとだいこくちゃん」
午後「ちびまる子ちゃん自習時間大好き／ムーミン」
2月9日(土)
午前「だるまちゃんとてんぐちゃん(かみなりちゃん)／忍たま乱太郎」
午後「日本のおばけ話」

もだめしのばん／がんばれスイミー」

【午前の部】午前10時～11時

【午後の部】午後2時～3時

場所 ●講座室

定員 ●各回先着50名

対象 ●全年齢

内容 ●16ミリフィルムで上映します。映写機やフィルムについての解説もあります。

参加料 ●無料

申込み ●不要

※作品が変更になる場合があります。

三岸節子記念美術館

〒(63)2892

開館20周年記念特別展

美人画―培広庵コレクション展―

日時 ●1月19日(土)～3月3日(日)

内容 ●日本画独特の領域のひとつ「美人画」。日本有数の美人画コレクションである培広庵が所蔵する鍋木清方、上村松園をはじめ、明治から昭和期にいたる美人画の変化をつぶさに眺めることのできる約70点をご紹介します。

観覧料 ●一般 800円

高大生 400円

小中生 200円

※市内の小中生、65歳以上無料。

オープニングトーク

「コレクターもやまばなし」

日時 ●1月19日(土) 午後2時～

(開場 午後1時30分)

講師 ●培広庵さん

参加料 ●無料(要観覧券)

申込み ●不要。当日直接会場。

講演会「培広庵 美人画コレクションを楽しむ！」

日時 ●2月10日(日) 午後2時～

(開場 午後1時30分)

講師 ●鍋木清方記念美術館学芸員

今西彩子さん

参加料 ●無料

申込み ●不要。当日直接会場

学芸員によるギャラリートーク

日時 ●1月26日(土)・2月16日(土)

午後2時～

参加料 ●無料

申込み ●不要。

コレクション展(常設展)「春を祝う」

日時 ●1月16日(水)～4月7日(日)

内容 ●夏から冬、そして春。三岸節子は移ろいゆく季節の中、作品を描きました。冬の風景画から鮮やかに咲き誇る

花の絵までを並べ、春の訪れを祝います。

観覧料 ●一般 320円

高大生 210円

小中生 110円

※市内の小中生、65歳以上無料。

※特別展会期中は特別展観覧料に含む。

子ども講座「私の掛軸をつくる」

日時 ●2月24日(日)

午後1時～午後4時

内容 ●和紙を使い掛軸に仕立てる。

申込み ●必要。詳しくは広報1月号を参照。

主催 ●尾西歴史民俗資料館

尾西歴史民俗資料館

〒(62)9711

休館のお知らせ

平成31年6月7日(金)まで(予定)

※休館中のお問い合わせは月曜日

から土曜日(祝休日を除く)午前

9時から午後5時まで

歴史講座「街道文化を探る」

日時 ●3月3日(日)

午前9時～午後5時

内容 ●江戸時代の街道に残る史跡や遺構を訪ねます。

定員 ●30名(抽選)

申込み●必要。詳しくは広報1月号を参照。

青少年育成課

☎(84)0017

「ヤングフェスティバル」

日時●2月24日(日) 午前10時～午後3時

内容●青少年グループ活動発表会
(一般入場可)

会場●木曽川庁舎

入場料●無料



『市民俳句教室』

【問合せ先 一宮市民俳句教室】

☎(73)5504

日時▼12月16日(日)・1月27日(日)

2月24日(日) 午後1時～

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼当季雑詠3句を一宮市民俳句教室委員が指導します。
(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

『市民川柳教室』

【問合せ先 一宮川柳社】

☎(77)3479

日時▼12月16日(日)・1月27日(日)

2月24日(日) 午後1時～

会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼自由吟および課題吟を一宮川柳社委員が指導します。
(初心者歓迎)

(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

『瀟聲會定例会』

【問合せ先 一宮漢詩瀟聲會】

☎(78)7953

日時▼12月22日(土)・1月26日(土)

2月23日(土) 午前10時～

会場▼中央図書館

内容▼漢詩文の基本的な読み方を

はじめ、作者の時代背景に

も触れながら初めての方

にも分かりやすく「唐詩三百

首」を解説します。

(初心者歓迎)

講師▼三島徹氏(東洋文化振興会

会長)

参加料▼月2、000円

申込み▼当日直接会場

『市民短歌教室』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(51)3570

日時▼1月13日(日)・2月10日(日)

3月10日(日) 午後1時～

会場▼一宮スポーツ文化センター
内容▼真清短歌会委員により実作

指導します。(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

☎(78)5002

日時▼1月12日(土)・2月9日(土)

3月9日(土) 午後1時～

会場▼葉栗公民館

内容▼各自10句持参、互選により

優秀作を記録に残します。

(初心者歓迎)

参加料▼無料

『瀟聲會作詩教室』

【問合せ先 一宮漢詩瀟聲會】

☎(78)7953

日時▼1月8日(火)・2月5日(火)

3月5日(火) 午前10時～

会場▼中央図書館

内容▼漢詩文の作り方の指導をは

じめ、持ち寄った創作詩の

添削の検討を会員間で行い

ます。(初心者歓迎)

参加料▼年3、000円

申込み▼当日直接会場

『新年短歌会』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(51)3570

日時▼1月27日(日) 午後1時～

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼どなたでも(大会に先立ち

1月17日(木)までにハガキに

て雑詠一首提出)。見学は無

料です。

参加料▼500円

申込み▼当日直接会場

『平成30年度(公社)中部日本
書道会一宮支部講演会』

【問合せ先 (公社)中部日本書道
会一宮支部】

☎090-8130-0713
日時▼1月27日(日)

午後4時～5時30分

会場▼一宮スポーツ文化センター

講師▼関根玉振先生

(公社)中部日本書道会

理事長

演題▼「筆をとって57年」

―中でも魅力を感じた書―

入場料▼無料(一般聴講歓迎します)

《県文化協会連合会の催し》

第43回 愛知県文連美術展

会期▼1月30日(水)～2月3日(日)

午前9時～午後5時

(30日は午後1時から、3日

は午後3時まで)いずれも

入場は閉館の30分前まで

会場▼刈谷市美術館

入場料▼490円(前売400円)

高校生以下無料

※生涯学習課で前売りしています。

『いちのみや文芸』

第47集を

刊行いたしました

10月20日(土)に『いちのみや

文芸』第47集を発刊しました。

随想・随筆、現代詩、漢詩、

短歌、俳句、川柳、狂俳の7

部門あわせて296名の方か

ら寄せられた2,309作品

を掲載しています。

1冊800円で一宮市役所

本庁者4階(一宮市教育委員

会生涯学習課)にて販売して

います。

閲覧もすることができま

すので、ぜひお手にとってお

みてください。



愛知県文化協会連合会の

催し(報告)

11月25日(日)、愛知県文化協会

連合会 西尾張部 芸能大会が、

江南市民文化会館 小ホールにて

開催されました。



西尾張部に所属する10の文化協
会の各団体が日ごろの練習の成果
を存分に発揮し、見ごたえのある
プログラムが目白押しでした。会
場からは温かい拍手が出演者の方
々に送られていました。

本協会からは、「一宮謡曲同好
会」(音楽部・謡曲部門)の皆様が
出演され、謡曲の1つの演技であ
る仕舞を演じられました。「高砂」
「羽衣」「屋島」「車僧」の4曲を
披露され、会場からは1曲1曲に
惜しみない拍手が送られました。

『加入団体の催し』欄に情報を
掲載しませんか？

このコーナーでは一宮市芸術文化協会加入団体の活動情報を募集します。
掲載を希望される団体は、発行月3・6・9・12月の前々月15日までに、
下記の必要事項を任意の様式にて記入の上、事務局まで提出してください。

必要事項

①行事名 ②団体名 ③問合せ先電話番号 ④日時 ⑤会場
⑥対象 ⑦参加料 ⑧申込方法 ⑨その他必要事項

提出先

〒491-8501 一宮市芸術文化協会事務局(住所不要)
または FAX 0586-73-9213

誰かが行かねば道はできない

映画監督／カメラマン 木村大作 さん

十月二十日(土)、一宮市尾西市民会館にて文化講演会を開催し、木村大作さんに「講演いただきました。」

【講演要旨】

散り椿のメイキング映像のラストで、「大切なものに出会えればそれだけで、幸せだと思うとります」という台詞がありましたね。僕も大切な人に出会えたので今があるんです。その一人目は黒澤明です。「フィルタ―使ったりカメラ側をいくらか細工しても、映すものが素晴らしいものじゃなければ、絶対良



くならない」というのが黒澤明の映画作りだよ。黒澤さんに付いたお陰で「映画って凄いなだ！この道を行こう！」と覚悟を決めたんだ。黒澤明に出会ったのが今の僕に繋がってるということです。

その次に出会ったのが、高倉健です。黙って立っているだけで、人を惹きつけ、人に何かをやらせちゃう。じっとしているだけで、人生が全部出ていました。

健さんから教えられたこと、黒澤明から教えられたことが確実に今の自分を生かし続けていると思っています。健さんはこういうことを俺に言っているんだって、黒澤さんは俺にこういうことを言っているんだって、という気持ちを持って現場で仕事をしていますね。黒澤明と高倉健に出会ってなければ、今の自分はありませんよ。確実にそう思っていますね。

ところで、僕は今日のように講演に行くことがあるわけですよ。そこで最初に「夢は挫折するためにある」と言うわけです。その後に「夢は五つくらい持った方がいいぞ」と話します。何故かと言うと、夢ってね、挫折するんだよ。「これは自分に合っていない」と自分で自覚した時に次の夢に向かう勇氣、これは最初から夢を追っているより、勇氣いるんだよ。今まで追っかけてる道よりも一本道を違えるわけ、それはね相当な勇氣がいることなんです。

先ほどのメイキング映像の中では「美しい時代劇を撮りたい」と言ってるね。「美しい」という日本語、みんな簡単に使いますね。基本的には「綺麗」って言葉は簡単に使っていないんだけど、「美しい」っていうのは人の心が入った言葉なんだよね。だから「美しい」「美人」っていうのは、その人の心根も美しいかどうか判断しないうちに「あの人美しいね」って言うっちゃいけないと思うんですよ。それは大自然でも同じで、厳しいところを通り過ぎないと本当

の美しい所には行けませんよ。アルプスもやっぱり三千メートル越えると全く違う世界になりますね。それが本当の意味の美しい風景であり自然なんですよ。皆さんの人生もやっぱり楽しんで生きているわけじゃないでしょ。どっかでは厳しい目にあってるわけ。楽しちゃうからダメなの。楽だなあと思った末は人に絶対美しさを伝えられないね。こうやって意識して生きるのと全く意識しないで生きるのでは、少なくともなんか人に与える印象は違うと思うな。実は、新田次郎原作の「孤高の人」を企画したけど、実写で撮れないんで止めたんです。今、CGを使っても撮ろうかなと思うんですが、CGを使ってごまかした映画に人は来ないですよ。ごまかしはやっぱり映画に出るし、なんとなく伝わってしまうんですね。

明治四十年の測量隊の話である『劔岳 点の記』にあれだけ人が来るってことは全部本物の所行って、馬鹿みたいにやっているとこののが、上手く世の中に伝わったんだね。

【題 字】武 山 翠 屋
【編集・発行】一宮市芸術文化協会

【連絡先】一宮市芸術文化協会事務局（市教育委員会生涯学習課内）
〒491-8501 愛知県一宮市本町2丁目5番6号
TEL 0586-85-7075 / FAX 0586-73-9213